



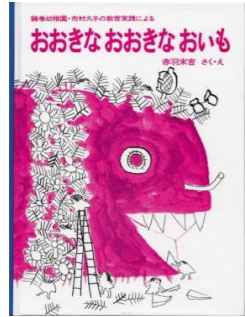
# おともいめん通信

2024年10月11日

## Vol. 156

### ●先生のおすすめ絵本●

おおきな おおきな おいも (作・絵) 赤羽 末吉 (出版社) 福音館書店

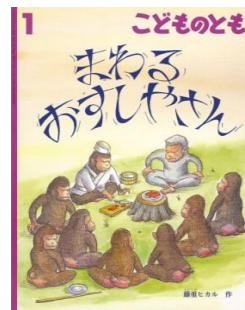


おいもほりに行く前と当日に連続で読みました。絵本の中では、雨で予定していた【いもほりえんそく】に行けず、子どもたちが紙と絵の具と筆で大きなおいもを描いて先生を驚かせていて、ページをめくるときにひまわり組のみんなは目を見開き「まだ まだ」と、担任と一緒に声に出して読んでいました。そして、盛り上がったのがおいもパーティーで食べた後のおならの場面！自分たちもおいもを食べたら「いもらす」になって、おならでとび上がろうね と面白い約束をしました。

子どもたちの想像力が刺激され、びっくりしたり遊びたくなったり食べたくなくなったり…。大笑いしながら最終ページまで楽しみました。ずっと大好きな1冊です。

<ひまわり組 R先生>

まわる おすし屋さん (作) 藤重 ヒカル (出版社) 福音館書店



山のお祭りで、人間たちに人気の『まわるお寿司屋さん』を開くことになったサルたち。しかし『まわるお寿司屋さん』がどんな店なのか分からないサルたちは、知恵を絞って考えます。「店自体がぐるぐるまわるお寿司屋さん」「客席の椅子がまわるお寿司屋さん」「作る店員がまわるお寿司屋さん」と、試行錯誤しながら何度も作り直すお話です。

この絵本のタイトルから回転寿司のお話だと思っていた子ども達。サルたちが作る様々な“まわる おすし屋さん”を見て「ちがう！ちがう!!」「そっちが回るんか〜い！」と突っ込みながらも、サルたちの発想に感心したり驚いたり、大笑いしながら見ていました。「回る」という言葉だけで、こんなに楽しめるとは！とても愉快で楽しい絵本です。

<ふじ組 A先生>

ハンバーグハンバーグ (作) 武田 美穂 (出版社) ほるぷ出版



ハンバーグの材料から作り方、出来上がるまでがていねいに描かれている絵本です。読み終わったあと、「つくってみたい!!」と言っていたので、ハンバーグ作りをすることにしました!! 買い物リストを書き、スーパーへ！材料を入れる(パンをちぎって牛乳にひたす…)、こねる、丸める、くぼみをつける…など、ほとんど1人でやりました!! キャッチボールみたいに投げるのも忘れずにやりました。とってもおいしいハンバーグが出来上がり、寝る直前まで「おいしかった〜！もっと食べたい〜!!!」と言っていました。初めに読んだ時は、ハンバーグを作るだけの簡単な内容だな…と思いましたが、簡単だからこそ挑戦しやすく、達成感もすごくあり、楽しい時間を過ごせました。

<すみれ組 Kさん>

はやくちレストラン (作) もぎ あきこ (絵) 森 あさ子 (出版社) 金の星社



色々な料理が早口言葉として出てきます。どの料理も美味しそうで、自分で声に出して言った後に「食べてみたい!」と言っていました。

絵が折り紙を切り貼したような感じで他の絵本と違うのでとても可愛いと喜んでいました。早口を言ったことがなく、初めて読んだ時は上手く言えなくて悲しんでいましたが、何度も読むうちに上手くなってきて「他にはどんな早口言葉があるのかな?」と一緒に調べました。自分で早口言葉を作ったりもして、絵本を通して興味が広がったようです。

<たんぽぽ組 Kさん>

なすこちゃんとねずみくん

(文) 堀米 薫 (絵) こがしわ かおり (出版社) 新日本出版社



畑のナスが歌い出すことによって、「いのちがめぐること」を実感するお話です。子どもは、なすこちゃんかうたう『みみずのうちはおくりもの・みみずのうちはたからもの』という歌に一瞬で心を掴まれたようです。げらげら笑ったのち、「どうして宝物なんだろう?」と興味をもっていました。また、なすこちゃんの周りにいる虫たちがよく見知ったものたちで、植物との関わり合いを感じられたようでした。収穫されてもポジティブな歌をうたい続けるなすこちゃんにじーんとします。

<ひまわり組 Sさん>

いちばん しあわせな おくりもの

あたたかみのある絵に、くぎづけ。くま・りすの2人がとても仲良しでキュンキュンしてました。りすくんが、くまくんにおくりものを、提案するも断り続ける事に、「なんで? りすくんがかわいそう…」と。絵を見て、「●●はこのドーナツがいいのにな…」と。でも、読んでいくうちに、くまくんは、そのようなおくりものより、「りすくんがいるだけで幸せ・うれしいんだ」とわかると、●●の表情は変わり、ものすごい、にっこりして、「イッヒツヒツヒツ(^\_^)」と喜んだ様子でほほえんでました。「2人はいいね、たのしそう、うれしそう(^\_^)」と親子でとても、あたたかい気持ちになりました♥♥

<もも組 Yさん>



ラヴ・ユー・フォーエバー

(作) ロバート・マンチ (訳) 乃木 りか (絵) 梅田 俊作 (出版社) 岩崎書店



男の子が女の子より甘えん坊でママっ子なのはいずれ人前で泣けなくなるからと男の子育児でよく耳にするフレーズ。「男は強くなくてはならない」からとそしてそんな時期がすぎたと思うと激しい反抗期。親子で思いきりぶつかる事もあると思うけど、その後に「ごめんね」と涙する夜は数えきれない程あるのが子育て。そんな時いつも心にひびく「アイラブユーのうた」母の想い。ストーリーの最後は母が歌えなくなり息子が我が子に歌い継ぐという悲しいストーリーなので母は泣きながら音読。「ママいなくなっちゃうの?!」「いついなくなるの?」「ずっと守るからね」「ずっとぎゅつとするからね」とハグして「大丈夫だからね」と笑い大きくなるにつれて今後反抗期や嫌になる時がくると思いますが、この本を思い出し乗り越えていきたいです。そしてこの本を自分に子ができた時に思い出し読んでくれたら嬉しいな。その日から、今以上にハグ多めです。ぜひよんでみて下さい。

<ふじ組 Kさん>

※紙面で紹介している絵本の表紙画像の掲載には、出版社の許諾をいただいております。



## 夏休みの読み聞かせカードより

だるまちゃんとかみなりちゃん (作・絵) 加古 里子 (出版社) 福音館書店

ほぼ毎日発生するゲリラ豪雨と雷に、いつも不思議そうに空を見て「何で雨がふるの?」「どこでドンドン音がするの?」ときいてくるのでこの絵本を選びました。雲の上が楽しいにぎやかな場所として描かれており、笑いながら聞いていました。遠くでゴロゴロ鳴ると「くものうえでなにかしているかもしれない…」と言っています。

<こぼと組 Hさん>



かさ (作・絵) 太田 大八 (出版社) 文研出版



雨が降るなかさをさした女の子が歩いています。大きなかさを持ってお父さんを駅まで迎えに行くのです。この本は文字が無く女の子のかさだけ赤く、それ以外は白黒で描かれているので、ページをめくるとき「いー!」と、かさを指差して喜んでいました。公園の前を通ったり、池の鳥さん親子を眺めたり、身近な背景なので自分達も一緒にお散歩している感覚でお話します。そうすると、「～にもトリちゃんいたよね」「公園ですべり台とブランコ乗る～」と自分の体験を重ねて話してくれます。最もお気に入りのページは美味しそうなお菓子、パン、ドーナツがショウウィンドウに並んでいる所。「どれがいい?」と聞かれるので答えると「はい、どうぞ」とつまんで渡してくれます。このやり取りがとても楽しそう。読むたびに興味・関心を持つ対象がいろいろあります。この日常を描いている雰囲気ですてきな一冊です。

<つばめ組 Sさん>

## 編集後記



今年もとても暑く長い夏でしたね。読み聞かせカードの原稿を入力しながら、この夏、おうちの方と絵本を介して、みほのつ子138通りの関わり方や楽しみ方があったらどうかなあと想像して胸が熱くなりました。自分が幼稚園の時に読んでもらった本に大人になって出会うと、不思議なことにその時の風景とかにおいとかが考えていたことがふわっと思い出されることがあります。そんなタイムカプセルみたいな絵本を子どもの心にしまっていてあげたいと改めて思いました。今月、えほんのへやに新しい本が加わりました。なかなか図書館で借りられない本やなつかしい名作まで、どれを借りても面白い絵本がいっぱい! ぜひぜひ遊びに来て下さいね。

<もも組 H>